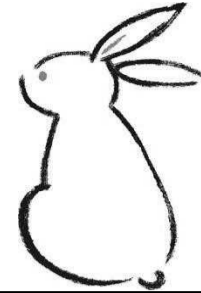




# Shiro-usagi

白兎・素兎



平川塾HP



アメブロ



YouTube

文責：平川 達三

## これって、ナンだと思う？



何だか急に春めいてきましたね。寒さに弱いジュークチョーは、冬の間はウォーキングをお休みしています。理由は後述しますが、啓蟄でもあるので、もぞもぞと土の中から虫が這い出るように、そろそろ再開しようかと考えながら、風の冷たさが涼しさに変わる日を待ちわびています。

さて、受験学年を目前に控える中学2

分けてひたすら覚えさせようとする無味乾燥な塾専用の国語教材が多い中で、難易度の高い学校での授業に通用するように設計されているので、むしろ深く読ませるといってやや異色のコンセプトを有しています。

ときを経て、この問題集が開成中学校だけでなく他の私立中学校にも広まりはじめ、やがて塾が採用する流れになったとき、私立中学校向けに設計されていて、公立中学校の生徒さんの学力向上や公立高校受験にあてがうにしてもあまりにも難しいことやコンセプトが合わないという声を受け、新たに開発編集したのが、『新中学問題集・標準編』です。

そして、この問題集の発刊に伴い、開成中学校の生徒さんのために開発編集された問題集は『新中学問題集・発展編』とされて今に至ります。

ちなみに、大阪府立高校入試のC問題のレベルですが、この「新中学問題集・発展編」の後半部分にある「実力強化問題」に匹敵します。というのは、2017年度か2018年度かはうろ覚えなのですが、この問題集の「強化問題」に採択されているのと全く同じ範囲で題材文が採択されていたことがあります。もちろん題材文に対する設問は異なり

年生の生徒さんには、3年生になる準備講座を粛々と進めるべく、数学は中学1年生の最初から基礎的な部分を掘り起こし中、英語は本当に短くて単純な長文問題から掘り起こし中、国語は文法と語彙の中学受験用のものから掘り起こし中、それと勿論、読解問題も絶賛継続中です。適宜、宿題も出しています。

この中でいちばん悪戦苦闘しているのが文法と語彙です。

「先生、文法と語彙の課題が終わりました。」とな？

「ほうほう。じゃあ、次の単元に…」

と言いかけたところで、ちょっと難色を示した生徒さんがいます。

「先生、この文法と語彙、めっちゃ難しい。」

ますが、国語の読解問題に多く携わっていると、こういう重複に巡り会うことも少なくありません。

ただし、大阪府立高校入試のC問題対策としては、同レベルのものをしていただけでは対策にはならないのです。というのは「同格＝6割得点」というのが私の経験値としてあるからです。どの科目でもそうですが、90点を取りたいなら、定期考査前の勉強については、各科目10時間ずつして良い塩梅、試験範囲ギリギリでは当然ダメで、その1.5倍は先に進んでいるくらいで「 $1.5 \times 0.6 = 9$ （いわゆる9割）」が成り立つというのが持論です。ですから、数学については高校数学の1年生の後半辺りまで進み、英語であれば英検2級取得は当たり前というレベルになります。ちなみに、北野高校や天王寺高校だったらこれでもいい加減です。だって、中には高校1年生にして高校の数学を全て理解していて、大学の専門レベルの数学を勉強している強者もいますから。

私はもともとピアノ弾きです。もっともピアノから離れて10年以上を経っているので、いざ演奏するにもかなり錆び付いた状態ですが、小学6年生の時点から、文部科学省が定めるところの高校

「小学生がやる内容やんか？」

「え？ でも、ここまで細かいのん、中学校でやったことないもん。これやったら、国語がキライになりそう。」

あらら。もう弱音ですか？

「まあ、確かに小学生対象だけれど、中学受験を終えて無事に合格した子にも今、これをしてもらってます。でもね、中堅の中学校の合格者さんだったら太刀打するのがちょっと大変かもね。」

「え？ そうなんですか？」

「偏差値60から上の、いわゆる難関といわれている中学校受験を目指す子がやる内容だよ。もっとも、超難関校受験を目指す子であれば、4年生の時点から始めてもちょうどいい塩梅になるような内容やけどね。」

と、しれっというワタシ。

「ええ～？ そんなんしてるのん？」

1年生が学習する音楽の内容をはるかに凌駕していました。なぜなら、専門で進むのですから、失礼ながら、一般レベルであたふたしていたらお話にならない、というのが専門技術の世界です。でも、このように言うともものすごい上から目線でモノを言っているような誤解を招く恐れがあるため、日頃は発言しません。

でも、本当に、英語で、数学で、サッカー・テニスで、プロとまでは行かずとも、専門的な道に進むことを望むのであれば、遅くとも中高生（高校生だったら遅いかも？）のうちに、そのくらい超越したステージにいないといけないというのを申し上げると、こういう経験をお持ちの方であれば、頷いていただけるのではないかと思います。

お話を戻しますね。

今年度の受験生さんのなかに京都在住のお子さんがいらっしゃいました。まさか私の塾まで毎週京都から通うことはできませんで、遠隔授業、つまり、ZOOMという通信システムを使って進めたのですが、サッカーが大好きでクラブチームにも所属されていて、塾に通う時間がないことから国語は私から、数学は別の方のから通信指導を受

「だって、高校受験だよ。あなたが目指している学校って、確かC問題を選択しているはずやし。」

大阪府立高校の入試は、国語・数学・英語はA・B・Cに分けられています。学校によって微妙に異なりますが、偏差値40前後の学校はA問題を選択し、偏差値60から上の学校はC問題を選択するかB問題選択で高得点を取らせるかのどちらかです。

レベルは、塾開設以来ずっと使っている塾専用教材に『新中学問題集』というものがあります。

これは元々は、目指すは東京大学法学部や医学部という私立開成中学校から、ここの生徒の実力養成にかなう優れた問題集の開発要請を請けた、その名も教育開発出版社が総力を挙げて開発したことが始まりだと伺っています。レベルの高さもですが良問ぞろいです。

読み取りのスキルだけをパターン別に

けていました。ごりごりのクラブ浸けはイヤだけれど、それなりにコートを思いっきり走り回られて、学力レベルもある程度高いところという難しい条件でしたが、京都府立桃山高校に合格しました。大阪府下でなざられると府立住吉高校レベル（偏差値63～65）に相当します。

小学5年生からのご縁があって、小学6年生の後半から進めたのが『新中学問題集・発展編』で、1年生対象、2年生対象を経て、公立高校受験志望だったことから、中学3年生については「標準編」と「発展編」の両方をしてもらい、中学1・2年生発展編と中学3年生標準編と発展編という合計4冊の問題集を終えたのは中学3年生の8月でした。つまり、9月からの中学生対象のものがない状態です。

そこで、いわゆる激ムズの高校受験対象の問題集を進めるか、いっそのこと高校生対象のものを進めるのかを親御様と相談した結果、その生徒さんの性格から判断して高校生用の読解問題とそれに付随する100文字まとめの練習を通して、題材文についての要所（ポイントとなるところ）を、読んだ瞬間にピックアップできるようにすることとしました。結果的にはこの方法が功を奏したわけです。

それでも五ツ木の模擬テストで古文が難しいというレスキュー要請があったので、高校生範囲の古文の文法は詳しく入り込まないけれど、やはり高校生古文の基礎編を全部と標準編の中でおもしろそうなものを選び、それを入試対策だけでなく、高校生になっても困らないための対策も兼ねる形で進めていきました。

ただし、これはあくまでもかなり高いレベルの対策ですから、願わくばここまで来て欲しいという願いをこめて、受験学年を目前に控える中学2年生の生徒さんに準備をしてもらっています。

「え？ でも、ここまで細かいのん、中学校でやったことないもん。これやったら、国語がキライになりそう。」

という弱音を思わず吐露した生徒さんに、「こういうシーンあるある」の、例えば、「あなたの半年後のために」とか、「あなたの高校受験のために」という、いわゆる「あなたのために」なんてことを言うのでは、ジュークチョーとしては芸がないので、次のような会話に持っていきました。

「あのね、この文法と語彙の問題集は、スポーツに喩えると何になると思う？」

ちょっと変な例ですけど、会社で自己中心的というのか、人の話を聞かないで好き勝手をしている人に対して、

「アイツは身勝手だ！」

なんてなことを言うと角が立ちまくります。で、そこを、

「ああ、あの人？ あの天衣無縫で天真爛漫な人？」（「生まれつきだから修正できないよ？」という反語的表現は発せずを含みで留める。）

と、さらりと言っただけ。ちょっとキツイですかね？（苦笑）

語彙力をこんな風を使うのは決してほめられたモノではないけれど、語彙力もある意味では道具ですから、使い方次第でしょうか。

語彙力って、何も特別な、それこそ「言葉の玉手箱」から取り出してくるのではなくて、何気なく言ったことが、ある瞬間にとんでもない力を発揮させるもとにもなるのですが、そういう力を発揮させるのは、特別な言葉ではなくて、むしろ日常の言葉なのです。

周囲の人の意図をくみ取る語彙力、そ

「え〜？ ナンヤロ？」

しばし考える。

「例えば、今日も楽しくテニスを楽しもうというテニス教室でね、見るからに優しそうなコーチが今日も楽しくと言いながら、次の瞬間に、ではまず始めに腕立て伏せを50回！ 続いて腹筋50回！ スクワット100回！ だなんて言ったら、どう？」

するとちょっと笑いながら、

「そんなん、ドン引きするわ。めっちゃイヤやし。楽しくないやん。」

「そうそう。『今日も楽しく』というイメージね。テニスを真剣にしている人には失礼というのか偏見と言われそうやけど、軽井沢かどこかの別荘地でセレブさんたちが楽しくテニスをしているイメージでしょ？ あるいは漫画『テニスの王子様』のイメージ。ナンかこう、カッコイイというのかな。」



の意図にふさわしい言葉を発する語彙力などなど、良い方にどんどん使って欲しいものです。

文法や語彙でもごりごりマッチョな追跡は、学者先生などの研究者にお任せしたとしても、その研究結果を書籍などで享受し自分のモノにする、つまり学び取るという発想が大切なのだと思うのです。

まあ、生徒さんにはここまでは言わなかったけれど、「国語の筋トレ」、頑張っただけ！ でも、辛すぎるときは負荷を軽くすればいい。そこはケール・バイ・ケース。臨機応変は甘えているのとは精神ステージが全く違うからね。

ナンでもそうですが、やりくり上手がイイですね。緩と急を上手に使い分けるのは、これからの受験期を上手に乗り越えるコツのひとつです。



「そうそう。」

「では、質問です。読解問題は辛いですか？」

「国語が好きだから辛くはないです。」

「テニスが好きなら、コートでのテニスの練習は多分、苦にならないでしょ？ それ、国語でいえば読解問題です。では、この文法と語彙の問題集は何に当たるでしょう？」

「ナンヤロ？」

「ほらほら、スポーツの基礎的な練習に不可欠なやつ。ほとんどの子がイヤがるやつ。」

「あ、筋トレ！」

「せいか〜い。」

文法とか語彙の問題を解く練習は「アタマの筋トレ」なのです。あるいは、単語を50個覚えよう、漢字を50個覚えよう、ことわざとか慣用句とか四字熟語とかを覚えましょう。これらも「脳（アタマ）の筋トレ」なのです。

筋トレって苦手な人が少なくないですよ。

ワタシも実は苦手です。苦手というよりキライです。正確にはキライでした。

## まずは自分がやってみる

記事の書いた時期が前後しますので、違和感ありますが、ご容赦下さい。

ニュースレターの作成を随分とサボってしまいました。

季節柄とはいえ、受験やら確定申告やらで四分五裂の状態という言い訳三昧ですが、第1志望高校への合格者を送り出し、大学合格者を送り出すことができました。

それぞれの学年で、それぞれの「受験物語」があります。何年かに一度は語りぐさになるようなことも。

その卒塾生を送り出してホッとするのもつかの間で、今年の中学2年生の受験に関して、早くも動き始めることにしました。

というのは、今年の中学2年生はおしなべて語彙に幼さを感じるからです。

この感覚は学校の先生もお持ちのようなので、ワタシの独りよがりではないことに確信が持ったこともあり、「善は急げ」「思い立ったが吉日」で動き始めたということです。

ニンゲンというものは、同時に同じことを考えるようでして、ある公立中学校でも早々と受験に関わるものな

で、（おそらく）糖尿病予備軍の入り口にいるだろうと感じて、否応なしに筋トレを始めざるを得なくなったのです。大げさに言えば、

「生きるべきか死ぬべきか、それが問題だ。」

シェイクスピアの名作『ハムレット』やあるまじなのですが、ホンマにこんなステージでした。

で、いざしてみると、もちろん方々の筋肉を傷めたりして、挙げ句にど派手なぎっくり腰までやってしまうという紆余曲折ありで、今でも相変わらずですが、けっこう気持ちがいいのです。それこそ筋肉の内側から言いしれぬパワーがせり上がってくるのを感じるときもありで、改めて自分に「Mっ気」があるのを自覚したという…。

「でね、ボクはね、この文法と語彙が大好きなんです。そういう意味ではドMかもね。国語のドM。」（笑）

いやだからといって、「あなたもドMになりましょう！」なんてなことは言いませんし強要もしませぬが、文法と語彙は国語読解だけでなく、仰々しく言えば、あなたの人生の宝物になります。

で基礎的な内容の宿題の分量が急に増えたそうです。

大手塾さんって中学受験は2月から新学年として動きますが、中学生の場合はどうなのかしら？

ワタシの性格的なこともあるのですが、生徒さんにある教材を導入する前に、あるいは、毎年異なる受験へのアプローチの方法を考えて、それを実行に移す前に、必ずワタシ自らがしないと納得できないのです。

例えば、数学の最初から復習をさせる場合でも、これから使おうとする教材をまず自分自身が解きながら戦略のイメージを練るという感じです。

問題集をざっと見てイメージだけで動くのではなくて、何かひとつでも確信めいたものを感じない限り、生徒さんにはさせないのです。

「これ、手強いけれどなかなか良い問題集ですよ。」

とワタシに言わしめる問題集って、そう多くはありません。

で、その「手強い」は誰の目線なのかということなのですが、ワタシ目線の「手強い」で導入すると、十中八九の割合で失敗します。なぜなら、いわゆる塾長目線と生徒目線（お客様目線）にはけっこうな距離があるからです。

「ああ、この問題はA君が苦戦しそうだな。」

「こっちの問題はB君とCさんが苦戦しそうだな。」

「ああ、これはみんなが苦戦しそうだな。初期の段階の模擬テストや実力テストに出されそうだな。」

こういうことを感じるには、まず親分である自分が先駆けて解いておかないと分からないのです。解きながら、生徒さんおのおのの反応を想像し、どうやって進めていくべきかという戦略めいたモノをイメージする。

ですから、成績を上げるためのシステム教材とか、「○△メソッド」みたいなものは一切納得できないから相手にしない。だって、どこのナンのデータに基づいたのかは知らないけれど、そんな平均的なものなんて納得できないし、納得できないモノを導入したら失

小学生の頃から計算がキライ。とにかく単純な計算式が面倒くさいのです。特に小数同士のたし算とひき算が苦手です。でも、複雑な文字式とかちよいと凝った因数分解、ことに高校1年生の数学Iで習得する複雑な因数分解なんぞは、知恵の輪で遊んでいるような感覚でいられるので大好きという、賢いのかアホなのか、よう分からんモノが頭の中で同居しております。

基本的には「ド文系アタマ」です。でも、数学もチマチマとやっているうちに理系っぽくなっているのも確かです。だって、読解問題って文章の分析です。分析って理系頭脳を使う作業だと思っているワタシ。

分析とか解析は、ものごとを論理的に分解したり構築するもとを考えたりすることですから（あくまでも「ド文系」の感覚ですが）、そういう意味では読解問題って理系思考につながるものだと思っています。

そういう思考エンジンでターボ的に計算問題を解くからそれなりに「事故」もするわけですし、ホンマ、安全運転ではなくて「安全的運転」なので、困ったモンです。

で、現在の中学2年生の塾生さんの中で最も個性的な生徒さんからも、のん

敗する確率が高くなる。

導入するのであれば、そのシステムや教材に確固たる信頼を置く。この信頼とは、このシステムやメソッドに私の塾生を安心して任せられるということ。システム教材や「○△メソッド」を批判するのではなくて、大切なのはワタシ自身が確信を持てるかどうか、全幅の信頼をそれに寄せることができるかどうか。

そのシステム教材の主張や「○△メソッド」の主張は無関係。いわゆる自社商品のアピールなんて、メリットしか言わない。デメリットの部分をもどようにして補填すれば良いかなんていう説明をまっとうにできるパターンに出会ったことがない。

塾開設以来35年間にわたって使い続けている教材があるのは、それだけの理由があるからです。その教材だって毎年のようにどんどん発展しているから全幅の信頼を寄せることができる。

もともと、合う合わないの問題もあるので、ワタシの感覚が絶対とは言えませんが、ワタシを信頼して着いてくれる生徒さんを裏切るわけにはいかないから、責任重大です。

びり構えていた他の生徒さんたちからも、それぞれのペースで進めながら、「先生、この答え変じゃない？」

という指摘をバンバン受けています。

その指摘を受ける度に確かめると、ホンマに恥ずかしい限りでございます。

「あ〜ビックリした。オレが間違えてるんかと思ったから、めっちゃ不安やったんっすよ。」

まずこの口調が個性的。

「だって、オレ、アホやからまた間違えたんかと思って…。」

でも、間違いは間違いです。指摘してもらってありがたいのです。指摘してもらう度に私が書いた解答や解説が、より完全なモノになりますからね。

このことをその生徒さんに話すと、

「オレ、安心しました。先生でも間違えるんやって分かって。」

「ワタシ、完全無欠やないよ。アカンとこだらけやよ。運動偏差値と筋肉偏差値は、君の方がずっと高いよ。」

まあ、こんなこと、どこの塾さんでも同じなのですけれど。

それはともかく、中学2年生の生徒さんにしてみれば、学年末考査が終わってやれやれというこの時期に、矢継ぎ早に宿題を出し始めたので、さぞかし嫌がるだろうなと思っていたら、意外や意外でした。ワタシが思っていたよりも意識がしっかりしているのです。

生徒さんには随分と助けられています。

### ----- Tea Brake

「テニスをする中学生男子／テニスの王子様のような雰囲気／イラスト」というコマンドをChatGPT-4に投げかけると、下のようなイラストを描いてくれました。この「ChatGPT-4君」は文章も書いてくれます。例えば、「芥川龍之介風に」と指示すると、そっくりな文章を提示してくれます。でも、イラストも文章もアイデアも、当たり障りのないラインまで。著作権をはじめと様々な利権が絡むからでしょうか。読んだ人の心を驚つかみするような異彩を放つには、まだまだ遠く感じます。



始めてからまだ1週間ほど（3月始めの時点）ですが、中学2年生の生徒さんの雰囲気が変わりましたね。ピリッと締まった感じがします。

それとともに、中学受験用の国語文法と語彙の問題集を進めているのですが、高校受験と大して変わらないところがあって、その高校受験用のモノがこれまたけっこう難しいので、ちょうど良い作用を与えてくれています。

「こんなにきっちりと学校で教えてもらったことがない。」

というのも、口をそろえるように言っています。

国語の勉強ってどうするの？ というように、どこか得体の知れない科目が「国語科」でもあるのですが、生徒さんそれぞれの頭の中で具体的な姿になろうとしているのが、手に取るように分かります。

間違い探し、これからもよろしくね。

こういうところがエエ加減なジュークチョーでございます。



## 先生、安心したわ ③

学年末考査が終わって息つく暇もなく今年の中学2年生の生徒さんには、

- ① 数学の1年生からの復習。
- ② ものすごく基本的な英語長文の練習。
- ③ 語彙力と文法。

この3点に絞って始めてもらいました。

で、前述する形で、

「まずは自分がすることで、生徒さんの見本になる」

なんていうエラソーなことをぬかしたワタシではございますが、とにかく計算ミスが多いのです。限られた時間で私の中での最速でやっていることあるのですが、生徒さんには

「ちゃんと見直さなアカンやん」

と言っておきながら、ワタシはというと、ほとんど見直さないのです。

医者の不養生ならぬジュークチョーの無頓着でございます。

## 合いことばは「こ・く・ご」

おそらくこういう結果になるやろな、というのが、正直なところですよ。

あまり言いたくはないですが、こんな出来の悪い教科書使ってたなら、さもありなん。

文部科学省が選定した英語の教科書を前にして、ことあるたびに「出来が悪い」というのには、理由があるからです。

それは、あまりにも文法を軽視していて、「文法はちょっと柵に上げておいて、とにかく感覚的に英語を話せるようになりましょう」という設計に様変わりさせてしまったからです。こんなの、泳げない子を容赦なくプールに放り込んで「死にたくなければ泳げ！」っていつているようなモノです。

確かに、私がよく言う「ごりごりマッチョな文法」は必要悪です。でも、書くにせよ話すにせよ、ちょっとフォーマルなシーンとなると、例えば、受験学年の人であれば自己PR文を書いたりするとき、文法力が弱いと説得力に欠けることもありますね。文法力とか語彙力はいわゆる縁の下の力持ちみたいところがあって、これが教養とか、考え方がしっかりしているとか、こういう現れ方をするように思います。

わたしたち日本人はいわゆる「ネイティブ・ジャパニーズ」ですから、日本語を自在に使っています。

たとえば、

「今日は一月一日の元日です。これからも日々、日進月歩の精神でがんばっていきましょう。」

という文。これ、外国人には超難関の文なのです。

ポイントは「日」という漢字です。

「今日=きょう」  
「一日=ついたち」  
「日々=ひび」  
「日進=にっしん」

おまけに「今日=きょう」は時と場合によっては「こんにち」と読まねばなりません。

同じ「日」という漢字なのに、日本人は一体どうやって瞬時に区別しているのか、外国人にとっては謎なのです。

これを逆の視点から考えたら、例えば英語の前置詞である「at/in/of/over/above」など、英語圏のネイティブがほとんど習慣的に使っているけれど、日本人は泣かされます。これと似ているのではないかと思います。

では、これはどうですか？ あなたは答えることが出来ますか？

「『こんにちは』って、どうして『こんにちわ』ではダメなのですか？」

広辞苑を筆頭に国語辞典を再編するたびに、大もめする言葉のひとつなのだそうです。

今や挨拶という意味での「単語」になっているのだから、「こんにちわ」に単語としての市民権を与えようではないかという声がある一方で、これはやっぱりな文の一部だという声があります。

本来は、

「こんにちは、お日柄もよろしゅうございますね。」

「こんにちは、ご機嫌いかがですか？」

という一文なのです。それが簡略化されて「こんにちは」となっているだけで、「こんにちわ」という挨拶の単語ではないというのが本来の形だという立場をとる人が猛反対をして押しきる形で、未だに「こんにちわ」は市民権を得られないというのが辞書の編集者の声です。

ちなみに、「さようなら」も一文の冒頭部分です。漢字混じりで表現すると、「左様なら」となります。

「左様ならば、拙者はおいとまつかまつります。しからば、ごめん。」（そのようでありますならば、私めに御用はございませぬので、失礼致します。それでは、ごめん（お許し）下さい。）

いわゆる武士ことばが長すぎるので、簡略化されたのですね。

日常は「普段着のことば」を使いますし、ただでさえ慌ただしいイマドキですから、文法云々なんてことまで考えません。

でも、あまりにも支離滅裂なことばで話されると、ジョーク混じりで

「ちゃんと日本語話せよ。」

なんていうツッコミを思わずしてしまうことはありますが、相手の教養度を疑うようなことまではしません。

「しゃべりことば」はそれよいのです。ですから、英語でも日常会話であれば余程の誤解を招き兼ねない言葉はさすがにアカンやつですが、文法的に少々変でも相手は分かってくれます。

「お湯が熱いから火傷に注意してね！」も、「お湯、熱い。火傷、注意！」というように助詞がなくても通じます。

覚えてたのたどたどしい日本語を使っている外国人を笑う人がいますけれど、覚えてたの英語を日本人が話したら、英語圏の人からすれば同じように聞こえているのではないかしら？

時々、文章ってどうやって書けばいいのかとか、お前さんはこれだけの文章をどこから引っ張り出しているのかとか、どうやれば文章（お話）を広げられるのかというようなことを尋ねられることがあります。

でも、私は戸惑うばかりなのです。というのは、（あくまでも）自分にとって日常の言葉を使っている、でも書くのだから、ポイントと思える部分はちょっと改まったことばを使うという程度の認識だから、文章の書き方を講釈できるレベルという意識などはからっきししないからです。

それでも、やはり書くとなるとあとに残りますから、それを読んだり見たりした人がその度にイヤな思いをするようなことは残せませんし、ましてや悪口雑言なんてもってのほかという意識は、一応心得ているつもりです。

先の記事で書いたように、中学2年生の生徒さんにしてもらっている「筋トレ教材」は、「しっかり言語」と「しっかい文法」ですが、難関中学受験レベルとはいえ、さすがに中学2年生の終盤に差しかかっているのだから、全部とは言わないけれど、6割か7割は出来なきゃいけないはずが、ケチョンケチョンの状態です。

「ホンマ、今まで何やってきたの？」というレベルです。

これで文章を書けなんて、ちゃんちゃらおかしい。文章を書くためのスタートラインにも立てないレベルなのです。これで英文を書けるようにしましょうだなんて、大丈夫なのかしら？

で、日本語の語彙力、とくに文法力を飛躍的にアップさせる秘訣を言いますね。それは、古文を勉強することです。特に敬語。尊敬語、謙譲語、丁寧語です。

つまり、「しゃべりことば」は極端な話、発した瞬間に消えていくもので、「書きことば」は残るものという意識的区別は必要でしょう。

ところで、下の結果ですが…

これは、ある出版社の社長（私の文章の師匠的存在）が書かれたメールマガジンの記事です（この文中の「私」は社長です）。

\* \* \* \* \*

日本の社会も国際化しつつあることを受けて、2020年度より、小学3年生から英語教育が始まっています。ではこの取り組みは順調に進んでいるのでしょうか。それについて考えるための1つのデータがあります。

それは、文科省の国立教育政策研究所が問題を作成して行われた全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の結果です。

これは4年ぶりの実施ですが、中学3年生の「英語4技能」の平均正答率は以下の通りです。なお、カッコ内は4年前の結果です。

- ・聞く力 58.9% (68.3%)
- ・読む力 51.7% (56.2%)
- ・書く力 24.1% (46.4%)
- ・話す力 12.4% (30.8%)

以上を見ると、どの力も前回より大きく下がっていることがわかります。特に書く力や話す力の低下がひどく、5問あった「話す力」の問題のうち1問も正答できなかった生徒が6割以上もいたとのことでした。

どうしてこのようになったのでしょうか。私はその原因の1つに「英文法学習の極端な軽視」があると思います。

私は外国を旅行する時、少し複雑な内容を英語で話す時はまず、自分の頭の中で英文法を使って「英作文」をします。そしてその文章に沿って英語を話し、相手に伝えます。このとき大切なことは、「英語を組み立てる力」です。つまり、英文を書いたり、英語で話す場合には「土台となる英文法」の修得が必須なのです。

ところが現在の学校の英語教育では、「英文を作って書く」ことが軽視されています。そのため、このような結果が生まれていると私には思われます。

\* \* \* \* \*

学校は公教育で塾は私教育というカテゴリーになっているらしいのですが、教育に公も私もないと思うのです。むしろ「官民一体」なんてこと言ってるから、いつまでたっても進展しない。

書く力なんて4年前のほぼ半分です。ゆゆしき事態です。

そこで、日本人なので、英語ではなく日本語に戻って考えてみましょう。当たり前とはいえ、日本語は日本の国語であり、英語はアメリカやイギリスの国語です。同じ国語つながりだから、文化や感覚の違いはあれど、結局は語彙力に帰着するのだと思います。

語彙はあなたが知っている言葉。語彙数はあなたが知っている言葉の数。

ここまでは知識であって教養ではありません。なぜなら、知識は「あくまでも在庫品」。その在庫をお客様が買い、それをどのように使いこなすかでその「在庫品」は生きてくるのです。

この「在庫品」を使いこなす力量が語彙力。この力量が英語云々の前に母国語である日本語のステージで大いに不足している。また、語彙力とは、知っている言葉が無意識に使うのではなく臨機応変さが要求されるので、教養力ともいえます。つまり、教養は話すその人からさり気なく醸し出されるものであって、知識量をひけらかすものではないから、無意識的、意識的にかかわらず、話している人の背後から自然と現れてくるものだと思います。

① 文章の締め方（終わり方）がしっかりしている。

② 句読点の打ち方がしっかりしている（読点は難しいのだけれど）。

③ 敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）が正しく使える。

古文を、学校で学ぶレベルより少しだけ入り込んで勉強（研究？）するだけで、①②③がしっかりしてきて、これだけで、あなたの文章は2ランクアップします。なぜなら、①②③を意識しなきゃ古文が理解できないから、接しているうちに現代文でも同じ意識で接することができるようになるからです。それも、ほとんど習慣的に無意識的にです。この習慣的・無意識的が大事です。

いちいち迷っていたり、「これ、なんだっけ？」とか「どうするんだっけ？」と立ち止まらなきゃいけない段階では肌に染みこんでいない、つまり、本当の意味で理解していないのです。

このしっかりとした言語感覚（語感）が日本語できて初めて英語（外国語）に反映されます。だって、どのことばもその国のことば、いわゆる国語なのですから、まずは母国語を基本にしないと何も始まらないし、始められない。

ことばを勉強（研究）するということは文化を知ろうとすることです。なぜなら、日常の文化の中からことばは生まれるからです。相手の国のことばを尊重することは文化を尊重することといっても過言ではありません。そういう意識で英語ともつき合えれば最高です。

## えっ？

今回は塾舎通信みたいな内容になってしまってますね。文字数がやたらと多いし、一部分にせよ内容が被っているところありで、書いている本人が結構辛いから、せっかくお読み下さっているあなたもお疲れになっているのではないかと心配しております。

おまけに、カフェの明かりも10時頃までつけられているし、フットサルのコートも10時30分まで使えるらしくて、こちら結構明るいのです。

昨日（3月10日）は久しぶりの完全休日でした。昼過ぎまで家の中でグダグダとしながら久しぶりの整理をし、昼下がりになって屋外に出ました。穏やかな日和ですが、まだ風が冷たい感じですね。

筋トレ&ウォーキングを記録するアプリを見返してみると、昨年は3月10日からウォーキングを再開していました。

昨年は11月の中旬辺りまでウォーキングをしている記録が残っています。確かその日は塾業務を珍しく8時半頃に終わることができたので、それではと帰宅してすぐに公園へ繰り出したのです。

## 算数の基礎体力

### Basic physical strength in mathematics

算数の基礎体力」でGoogle A.I.に英語化してもらったら、

「Basic physical strength in mathematics」という回答をくれたので、そのまま使用しました。ここで大事なのは、「基礎学力」ではなくて「基礎体力」としたところ。

いやはや、ナンということはないのです。いわゆる、小学3年生から5年生までの計算に特化した、「算数筋トレ問題」の冊子なのです。

日本の小中学校も高校もですが、掘削式ではなくて旋回式の教育スタイルを採用しています。旋回式とは、新しい学年になったらまずは計算の単元があり、次に長さとか図形とかの単元があるように指導設計されているスタイルのことです。

中学1年生と2年生の数学でいうと、正負の数の概念と計算があり、次に文字式の計算がありますが、ひとつの式に1つの文字があるのが中学1年生で、例えば、「x」と「y」の2種類以上の文字が含まれているのが中学2年生内容。あるいは、一元一次方程式が中学1年生で、連立二元一次方程式（連

10年ほど前までだったら、夜の公園なんて薄暗くて不用心でしかなかったのですが、ここ数年前から整備が急速に進み、外灯の数も大幅に増やされたこともあってか、ジョギングする人、ウォーキングする人が結構いますし、お勤め帰りの会社員さんが自転車で公園内を通ったりと、想像以上に賑やかです。

でも、あることで、ちょっと命の危険を感じたのです。それは、頭です。

ウォーキングで体温が上がっているのは、あくまでも頭から下です。頭部も冷やさぬように帽子を被っていますが、11月中旬頃におこなった夜のウォーキングをおえて帰宅したときに気づいたのが、思っているよりも頭部が冷えていたことです。

若いならともかく、この年齢なので、ちょっと危険を感じたのです。ヒートショックみたいなことになったら大変なことになるのでは？ というイメージが脳裏を横切ったのです。

それで、こういう動きを塾が出来るときは限られてきます。というのは、学

立三元一次方程式をする場合もある）を中学2年生で学習しますが、要するに、一元一次方程式の延長線上に連立二元一次方程式があるので、中高一貫校では中学1年生の間に一気に習得させてしまいます。これが掘削式です。

この掘削式が有効なのは、代表的なところでは受験学年である中学3年生の復習時です。それこそ、中学1年生の正負の計算から中学3年生の平方根の計算式に関わる範囲を一気に復習するとか、関数も比例反比例から始まり一次関数を経て二次関数まで、図形の場合であれば、平面図形と立体図形の面積（表面積）や体積に始まり合同の証明と相似の証明を経て三平方の定理までに至る範囲を、計算・関数・幾何・文章題などのカテゴリーに分けて一気に復習する場合です。

でも、これをするにはかなり頭脳を鍛えられていないと出来ません。そういう学習思考エンジンが育ってくればという願いをこめて「基礎体力」としました。ちなみに、今年度の2年生もその一貫で、入試対策としてはまだまだ序の口です。

それで、こういう動きを塾が出来るときは限られてきます。というのは、学

それ以来、冬場のウォーキングは、寒さが苦手ということにかこつけて一旦中止を決め込むことに。

中止にするのは簡単なのですが、再開するとなると、外気温との相談となるのと、今年はなかなか温かくなならないのもあって、正直なところ、まだ再開をいつにするのか迷っています。基本的にはそよ風に冷たさがなくなり涼しさを感じられたらというのを判断の基準にしています。

自宅でのダンベルごっことか、足首に錘おもりを巻き付けて膝まわりの筋肉や脚の筋肉に負荷をかけ、なんやかんやと言いながら細々と続けています。

で、昨日は天候も良くて、刺すような冷たさもなく、でもまだ涼しいと感じるところまではなかったのが、ウォーキングの準備も兼ねる形で公園の中を徒歩で通り抜けて、お目当てのパン屋さんとスーパーに買い出しに行きました。

あんな、いつの間にか桜が咲いていますよ。

公園内の周回には、カワヅサクラ・ジュウガツサクラ、そしてとソメイヨシノが植えられています。咲いていたの

校授業が動いているときは、生徒さんにしても、どうしても学校授業の対策を望まれるのは至極当然だからです。

ではいつ動くのかと言えば、長期休暇です。春休み・夏休み・冬休みは絶好のチャンスなのです。このことは、すべき内容は中学生に比べればまだ少ない（といっても結構盛りだくさん）小学生も同じです（でも、受験しない子ってヒトゴトみたいにしてますけれど、そんな今のうちだけですぞい）。

ところで、受験学年の生徒さんに私が必ず言うことがあります。それは、

「秋の夕暮れはつるべ落とし＝受験学年の9月以降もつるべ落とし。あっといって間に受験ですよ。」

受験直前に「落とし」なんていっちゃうと縁起が悪うござんすが、今ならまだナンボとも言えます。だって、毎年、受験を終えた生徒さんに伺うと、異口同音で「ホンマに夏休みが終わったらあっと言う間でした」だからです。

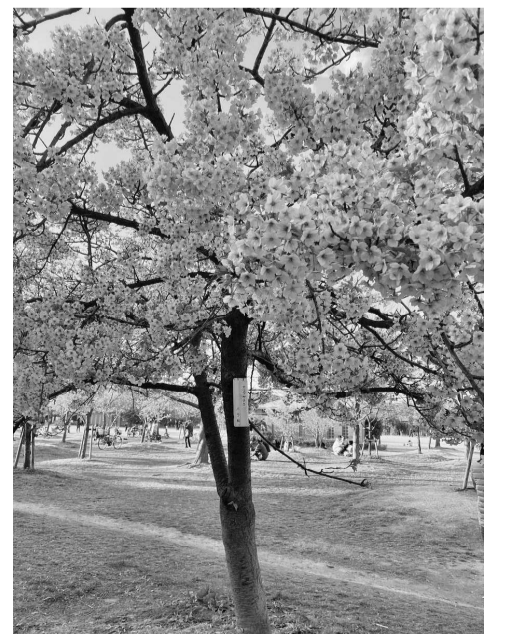
受験ギリギリまで頑張らなきゃいけないけれど、ギリギリまでおっちらおっちらのノンビリはいただけません。

「12月までは走れ！ 1月は歩け。歩かなきゃ振り返られない。」

1月はもう一度振り返って確かめる期間。そのくらいの気持ちの余裕があれば理想的。そのために今から走り始めているのです。

はカワヅサクラ（河津桜）でした。

古代の人々が梅や桜を愛めでたことは残されている作品から大いに伝わって来ますが、現代人でもやっぱり桜は特別なようで、日本人のDNAなんやろなと思わされます。



お気に入りのパン屋さんでお気に入りの商品をゲットし、その隣にあるスーパーで夕食の食材を調達し終え、再び公園内を通ります。

ソメイヨシノとジュウガツサクラの開花はもう少し先になりそうだなと思いつつながらカワツサクラのところに歩み寄ると…

ああ、ワンちゃんがいるなあ…？  
およっ？  
えっ？？？？



ぶ、ぶた？

いや、どこからどう見ても豚さんやろ

と密かに独りツッコミしながら、豚さんに目を落としました。

ハーネスをつけてもらっております。

ウォーキングを初めてから3年、桜の季節も3回目、まだ公園との直接的な関わりは短いとはいえ、豚さんを連れてくる人にお目にかかるのは初めてです。

豚さんって比較的飼いやすいとは聞いておりますが、実際に目にしたのは初めてでござる。

おもしろいのは、写真のバグ君。この豚さんに興味津々で、お友達になりたいらしく、この写真に収まる直前には豚さんに突進したものの、「突撃」を失敗し、すってんころりんと転んでは四肢を天に向ける恰好でジタバタさせては飼い主さんから失笑を買ってました。

この写真には収まっていませんが、左側には、やはり豚さんに興味津々なコーギー君がおります。

これらのギャラリーからの熱い視線はわれ関せずとばかりしれっと草を食っております。

なんともまあ、のどかな昼下がり。



豚さんって、失礼ながら、そのイメージから結びつけるのはちょっと難しいのですが、めっちゃきれい好きで賢い動物らしくて、人にもよく懐くそうです。

以前住んでいた家の近所にアヒルを飼っているお家があって、そのアヒル君が飼い主さんと一緒にご近所を歩いているのを見たときも、アヒル君が想像以上に大きかったことと、お尻を振りながら歩く姿が妙に世慣れているのを見て、かなりビックリさせられましたけれど、今日は豚さんでした。



## コスパ的には… ⑥

以前から気になっているお店が商店街にありまして、思い切って入ってみました。いわゆるカフェですね。以前はピアノ教室があったんですが、撤退なさったあとに出来たお店です。



お店の人はめっちゃ愛想が良くてイイ感じでしたが、思っていたのとかかなり違っていたこともあってか、入ったことを少々後悔しました。

イマドキの人の感覚なのかしら？ とはいうもののパイプとプラスチックでできた椅子では落ち着きませんか。

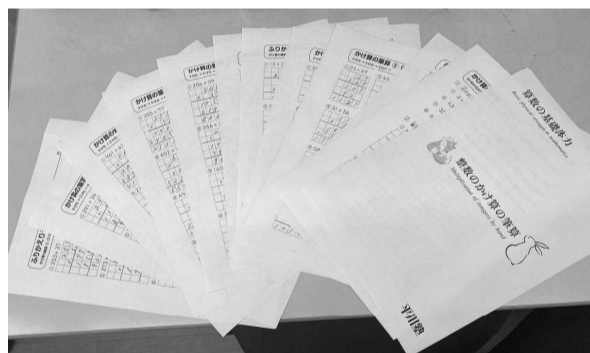
というのか、この辺りで落ち着いた隠

れ家的な喫茶店とかカフェなんて1軒もありませぬ。ここも張りぼて感がするしで…。

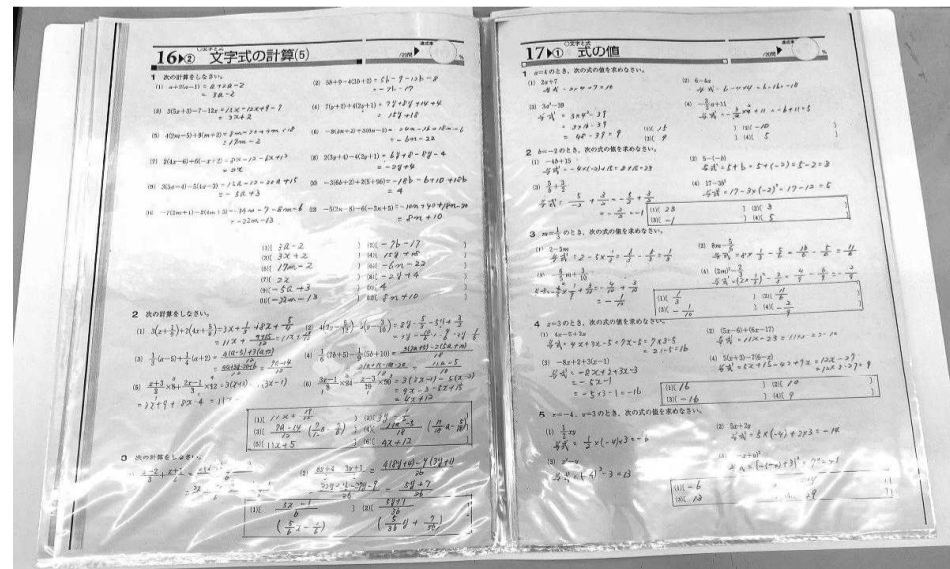
確かにこの辺でスタバみたいなレベルを期待する方が間違っているのかもしれませんが、お水もセルフで、コーヒーも紙コップ。しかもめっちゃ小さい。これで450円はどうかのかしら？

これやったらセブンイレブンでLサイズのドリップコーヒーを210円で買って家飲みした方がコスパがよろしい。

まあ、公園内にあるヤンマーが経営するらしい、店内が騒がしくて、椅子もプラスチック製でガタガタしていて不安定で、おまけにランチもレトルトの組合せ丸わかり、しかも1500円ってナニ？ という店より愛嬌はありますが、もう行かないかな…。



「算数の基礎体力」冊子。  
ジュクチョーがまず解いて、手書きで解答解説を作っています。書きづらいのでバラバラにしていますが、生徒さんにお渡しするときは右のように閉じた形にしています。



こちらは中学2年生対象（1年生内容は中学1年生の生徒さんにもしてもらっています）。模擬テスト・実力テスト・入試などでは「大問1」のカテゴリーで1行問題という形で出されることが多い部分です。つまり、確実に正解を取らないといけないところですね。「五ツ木」が好みそうな問題もたくさんありますね。

## 〈編集後記〉

ようやく寒さも緩む気配を感じるようになりましたね。ただし、これからは花粉の季節ですが、ワタシは花粉症になったことがないのです。その代わりにアトピーを持っておりまして、髭を剃る前は3回ほど石鹸顔を洗わないと切れてしまいます。ましてや電気カミソリなんて御法度中の御法度で、もうただれて真っ赤になります。あるいは、ちょっと忙しきにかまけてコンビニ弁当なんぞを食べますと、翌日には背中がかゆくてたまらなくなります。

花粉症の場合、ひどくなる人は発熱したりするそうですね。一応塾舎ではジアイーノ君が頑張ってくれておりますので、室内ではひどい鼻づまりにならないみたいですが、それでも体調によっては学習意欲を削ぐくらいになるお子さんもいらっしゃいます。点眼薬などの即効性のある薬をそれぞれで持ってはありますが、本当に辛そうです。



Amazonサイト